

『水にかかわる生活意識調査』

ミツカングループでは'95年以降、『水にかかわる生活意識調査』を実施してまいりました。

本年で5回目を迎えるもので、『99年度の調査結果は7月に新聞等で公表されました。

今回の特集では、この最新の調査結果を中心に、

「都市生活者をもつ水へのイメージとくらしの関係」について追ってみたいと思います。

今回の特集では、この最新の調査結果を中心に、

調査概要

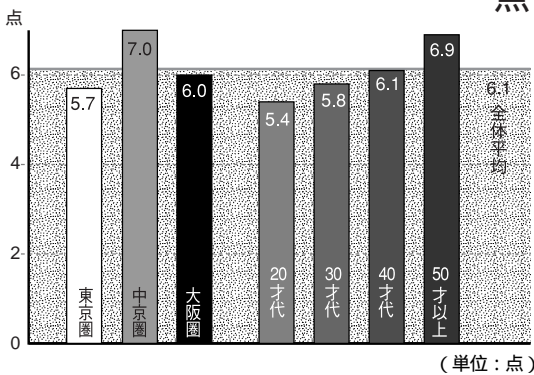
- ・ 調査対象数 6000票
- ・ 有効回答数 490票 (有効回収率: 81.6%)
- ・ 調査対象者 東京圏(東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県)、大阪圏(大阪府、兵庫県、京都府)、中京圏(愛知県、三重県、岐阜県)
- ・ 調査方法 ファックスによる調査票の送付および回収
- ・ 調査期間 1999年6月4日～6月9日
- ・ 調査対象者 20歳代から60歳代の男女

Q1 あなたの家庭の水道水を10点満点で採点すると?

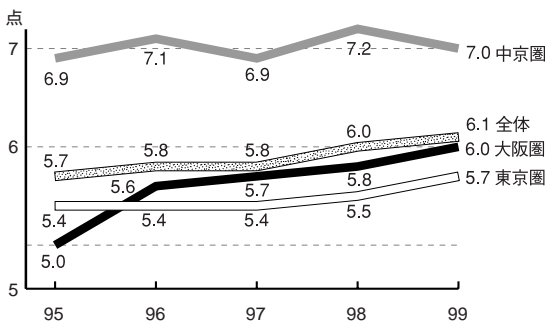
全体平均では過去最高の6.1点
 低年齢ほど厳しい採点で20歳代では5.4点
 中京圏と東京圏では大きな差

くらしの基本を支える水道水に対して、10点満点評価を行ってまいりました。全体を平均すると6.1点(A図)、この点数はおおよそこの5年間、大きな変動はありません(B図)。ただ、C図を見ると、東京圏・大阪圏居住者がほぼ同様に左右対称に分布しているのに対し、中京圏居住者は8点をつける人がもっとも多く、右側に寄った分布となっています。この違いがどこからくるのか、興味深い点です。

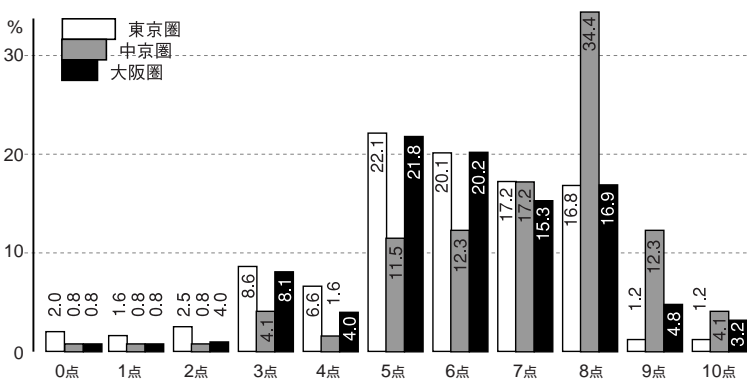
A. 《水道水の10点評価 - 99年》



B. 《10点評価 - この5年間の推移》 (単位: 点)



C. 《居住地域別に見た評価の違い - 99年》 (単位: %)



《有効回答内訳表》

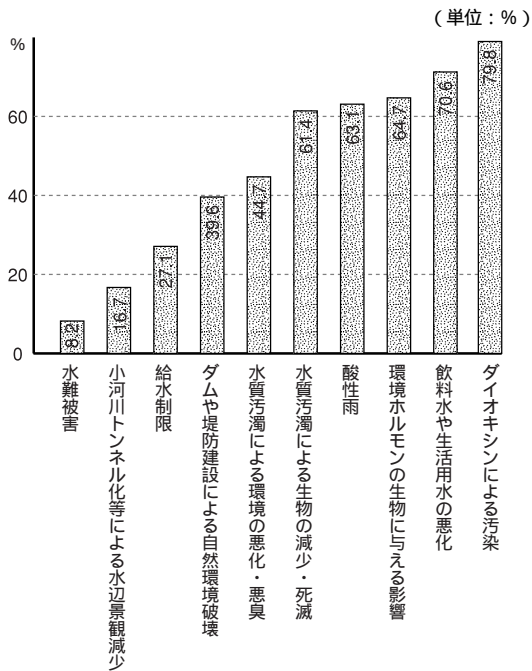
(単位: 人)

	東京圏		中京圏		大阪圏		全体		小計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
20代	27	30	16	16	11	13	54	59	113
30代	29	33	14	15	16	18	59	66	125
40代	34	25	16	16	15	15	65	56	121
50代以上	39	27	16	13	19	17	74	57	131
合計	129	115	62	60	61	63	252	238	490
	244人		122人		124人		490人		

東京圏：大阪圏：中京圏の回答者数比率は、ほぼ2：1：1の割合となっています。過去4年間も、毎年同様の規模で調査を実施してきました。

水に関して日頃不安を感じている事柄について、10の選択肢から複数選択していただいた結果です（A・B図）。中でも目を引くのは「ダイオキシンによる汚染」に、全体で5人に4人が不安を感じているという点です。また、昨年「環境ホルモンへの生物への影響」を挙げた方は東京圏では61.4%でしたが、今年は68.0%と約7ポイント上がっており、マスコミ報道の影響も予想される結果となっています。

A. 《日頃感じている水への不安 - 99年》



B. 《A図のワースト5を居住者の地域別・性別から見た構成比率》

	東京圏	中京圏	大阪圏	男性	女性	全体
ダイオキシンによる汚染	81.6%	79.5%	76.6%	73.0%	87.0%	79.8%
飲料水や生活用水の悪化	75.0%	63.9%	68.5%	69.8%	71.4%	70.6%
環境ホルモンの生物への影響	68.0%	60.7%	62.1%	60.3%	69.3%	64.7%
酸性雨	62.7%	63.9%	62.9%	58.7%	67.6%	63.1%
水質汚濁による生物の減少・死滅	66.8%	54.1%	58.1%	58.7%	64.3%	61.4%

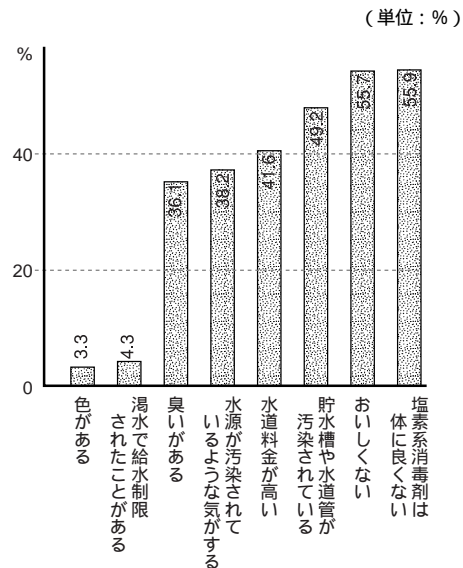


8割近くが『ダイオキシンの汚染が不安』と回答

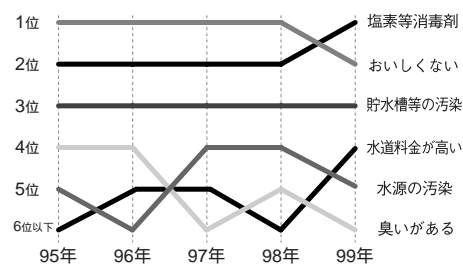
Q3 水に関して日頃不安に感じている点は？

現在の水道水について、不満・不安を感じている点を8つの選択肢の中から複数選択していただいた結果です。しかし、A～C図を見ても、おおよその傾向はほとんど変わっていません。世代別に見ても、こうした不安をほぼ均等に感じているようです。

A. 《水道水への不満・不安 - 99年》



B. 《A図のワースト5 - この5年間の推移》



C. 《東京圏・中京圏・大阪圏居住者が選ぶワースト5 - 99年》

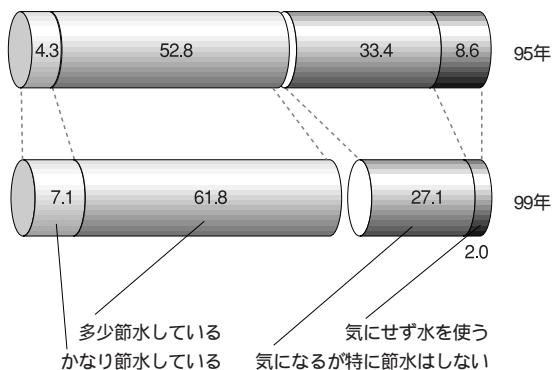
	東京圏	中京圏	大阪圏	全体
1	おいしくない 63.5%	塩素系消毒剤 45.1%	おいしくない 62.1%	塩素系消毒剤 55.9%
2	塩素系消毒剤 63.1%	貯水槽等の汚染 43.4%	塩素系消毒剤 52.4%	おいしくない 55.7%
3	貯水槽等の汚染 52.5%	水道料金が安い 36.9%	貯水槽等の汚染 48.4%	貯水槽等の汚染 49.2%
4	水道料金が安い 42.6%	水源の汚染 34.4%	水道料金が安い 44.4%	水道料金が安い 41.6%
5	水源の汚染 40.2%	おいしくない 33.6%	臭いがある 40.3%	水源の汚染 38.2%

「塩素系消毒剤」「おいしくない」「貯水槽や水道管の汚染」がトップ3

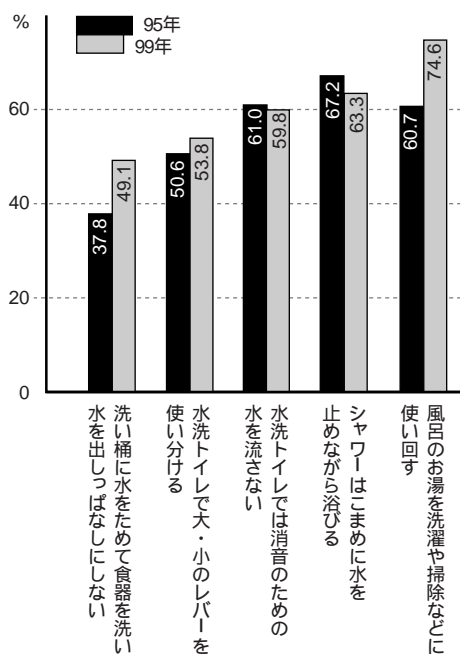
Q2 現在の水道水について不満・不安を感じている点は？

家庭での節水実行度（A図）ならびに「かなり節水している」「多少節水している」と回答した方が行っている具体的な節水方法（B図）についてそれぞれ複数選択いただいたものを、'99年と'95年と比較したものです。家庭での節水習慣も確実に根付いているようです。'95年には「気にせず水を使う」と答えた方が8.6%もいたのに対し、今年は2.0%にまで下がりました。気になるのが、具体的な節水方法です。B図を見ると、「風呂のお湯を使い回す」「洗い桶に水をためて食器を洗う」が確実に増えていますが、「水洗トイレで消音のための水を流さない」が61.8%から59.8%、「シャワーはこまめに水を止めながら浴びる」が67.2%から63.2%へと減っています。洗濯や洗い物という家事面での節水方法は根付いているようですが、トイレやシャワーの水に対する節水意識が、脇に追いやられる傾向があるように思われます。

A. 《家庭での節水実行度》（単位：％）



B. 《具体的な節水方法》（単位：％）



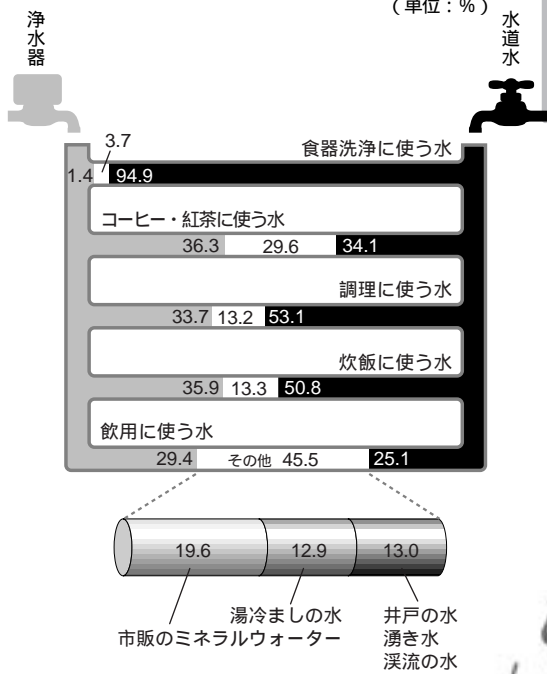
約7割が節水派 「風呂の湯の使い回し」は7割以上の方が実行

Q5 節水を実行していますか？ その具体的な方法とは？

水を飲む時、ご飯を炊くとき...など5つの用途で使う水を、水道水、湯冷ましの水、井戸の水、湧き水、溪流の水、浄水器を通った水、市販のミネラルウォーターの中から各々1つずつ選んでもらった結果です。図は、その結果を“水道水”と“浄水器を通った水”“その他”に分けて示したものです。飲料水への不安のためか、かなりの程度の方が浄水器を使っていることが分かります。さらに、炊飯に浄水器を使う方が、'95年では28.3%にすぎなかったのに対し、今年は35.9%となっています。また、「飲用に使う水」として「その他」の内訳は、「市販のミネラルウォーター」が19.6%、「湯冷ましの水」が12.9%と続いています。飲料水の浄化に費用をかける方が少しずつ増えてきているようです。

《用途別の“水道水”vs“浄水器” - 99年》

(単位：％)



Q4 水道水 VS 浄水器 あなたが日常使っている水は？

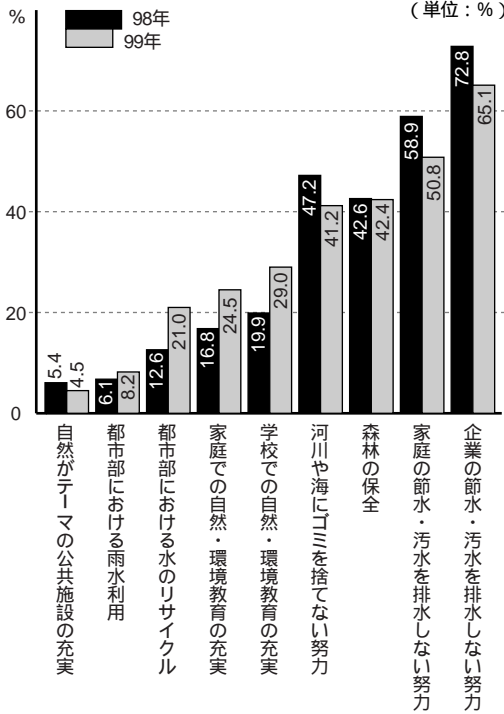
ご飯は水道水で炊くが約5割 飲用には浄水器を通った水を使うは34%



将来にわたって、きれいで安全な水を残すことに必要なことは何でしょうか。図は11の選択肢の中から複数選択していただいた結果です。

「企業や家庭の節水・汚水を排水しない」「森林の保全」「河川や海にゴミを捨てない」- これらはここ数年大きな順位変動はありません。ただ、99年は「学校や家庭での自然・環境教育の充実」や「都市部における水のリサイクル」が、昨年に比べ大幅に伸びていることが目を引きます。

《きれいで安全な水を残すために必要なこと》
(単位：%)



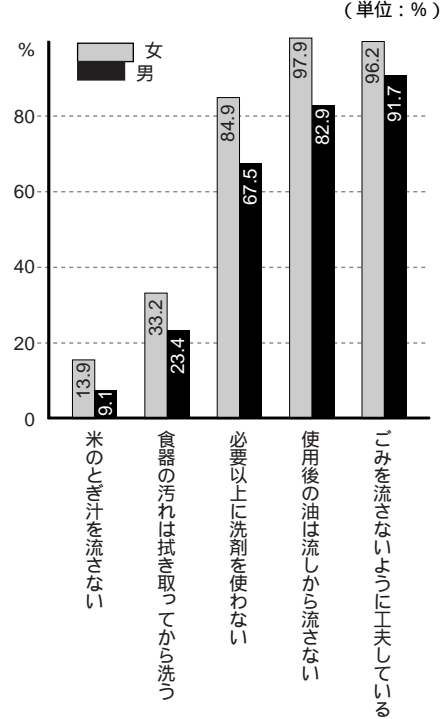
必要なことのトップは「企業の努力」

Q7 きれいで安全な水を残すために必要なことは？

家庭で行っている具体的な水質保全への配慮を、5つの選択肢の中から複数選択していただいた結果です。やはり男女の意識の差が表れる結果となっています。どの方法もこの5年間、ほぼ同様の比率で推移しています。

意外と知られていないのが「米のとぎ汁を流さない」。環境に負荷をかける一つの原因となっています。

《家庭で行っている水質保全への配慮 - 99年》
(単位：%)



「ゴミを流さない」「油を流してから流さない」は9割以上の実施率
女性の方が高い身近な環境保全意識

Q6 あなたが家庭で行っている水質保全への配慮は？



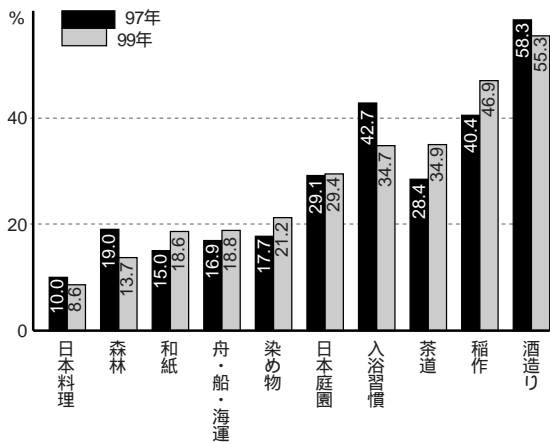
「水と関わりの深い日本文化は？」という問いに、次の19の選択肢の中から3つを選んで頂いた結果です。

茶道、華道、書道、日本庭園、日本料理、木像建築、森林、歌舞伎、能・狂言などの伝統芸能、染め物、宗教、園芸、舟・船・海運、稲作、酒造り、醤油造り、酢造り、和紙(製紙技術)、入浴習慣、祭り

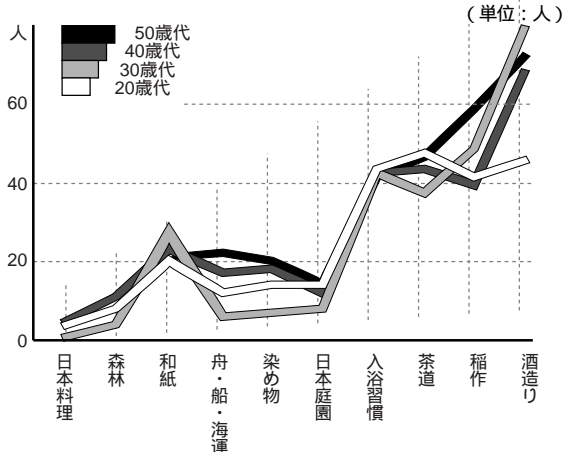
水から思い浮かべる日本文化というと、「酒造り」や「稲作」ということなのでしょう。A図を見ると、'97年には42.7%と「酒造り」に次いで2位を占めていた「入浴習慣」が、今年では大幅ダウンしているのが気になります。

ではこの結果を世代層別に分けてみると、どのような結果がでるでしょうか(B図) まず目を引くのが、20歳代の意識です。20歳代が最も「水に係りのある日本文化」と感じているのは「茶道」であり、「酒造り」や「稲作」、「入浴習慣」は2番目でほぼ並んでいます。「酒造り」を選ぶ方は、年齢層が高くなるほど多くなると私たちは思いがちですが、実際には30歳代の方が一番多いという結果が出ています。また、「酒造り」以外の項目については、おおむね各世代が同調しているようです。とは言っても、詳しくみると、20歳代が他の世代とは若干異なる動きを示しているように思われます。

A. 《水と関わりの深いと思う日本文化》(単位: %)



B. 《世代によって異なる水と日本文化のイメージ - 99年》(単位: 人)



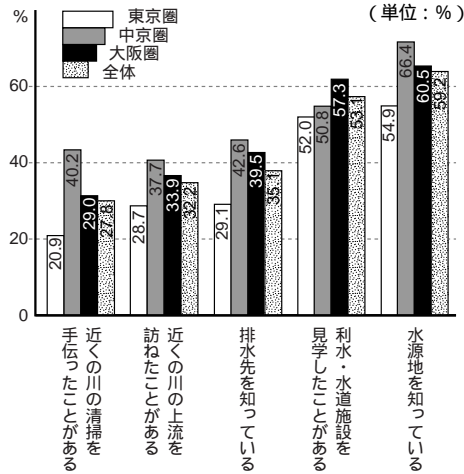
酒造り、稲作、茶道...

Q10 水と関わりの深い日本文化といえは?

水に関わることで知っている・経験のあることについて、複数選択していただいた結果です。都市居住者にはなかなか、「蛇口と排水口の向こう側」のことが分からないものです。そこで水に関わることで知っていることについて調べてみると、水源地や利水・水道施設に比べ、排水先を知らない方の割合の多さが目を引きます。

また、総じて中京圏の認知率・経験率が高いようです。水道水への評価での東京圏・大阪圏との際だった違いなど、中京圏の生活者と水との関わりには、他地域と異なる特徴があるように感じられます。

《東京圏・中京圏・大阪圏 各居住者の「知っていること、経験のあること」 - 99年》(単位: %)



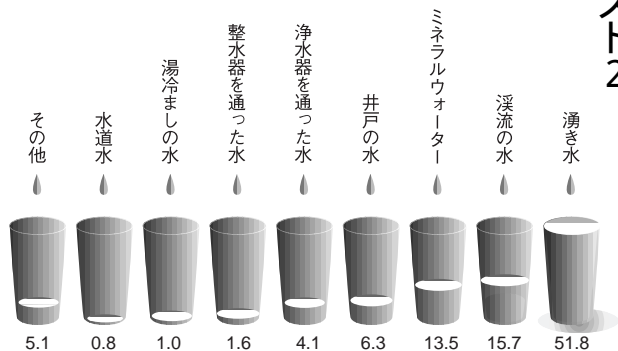
「使った水の排水先を知っている」は35%
「川の清掃を手伝ったことがある」は中京圏で高く40%

Q8 水に関わることで知っていること、経験のあることとは?

「一番おいしいと思う水」について、9つの選択肢の中から1つだけ選んでいただいた結果です。「湧き水」が2位以下を引き離して半数以上を占めています。2位の「溪流の水」とも合わせると67.4%となり、自然の水への評価の高さが目を引きます。

湧き水、溪流の水がベスト2
やはり自然の水が一番

Q9 あなたが一番おいしいと思う水は?



《一番おいしい水 - 99年》(単位: %)

Q11 日本でもっとも自然が残っていると思う川は？
『四万十川』が48%で断然トップ

《もっとも自然が残っていると思う川
ベスト5 - 過去3年間の推移》

(単位：%)

	1999年	1998年	1997年
1	四万十川 48.6%	四万十川 48.5%	四万十川 42.1%
2	長良川 6.1%	長良川 6.3%	長良川 5.3%
3	信濃川 4.3%	信濃川 5.0%	石狩川 4.5%
4	石狩川 4.1%	最上川 4.4%	信濃川 4.3%
5	最上川 3.5%	木曾川 3.8%	最上川 4.1%

この調査結果を見て

高知県文化環境部 四万十川対策室

室長 市原 利行 氏

「日本でもっとも自然が残っていると思う川は？」で、四万十川がトップになっただけでなく、昨年と比べて今年もトップに上りつづけている。今年も調査でも三年連続トップで、約半数の方が四万十川をあげていただいたということ、非常にうれしく思っています。

四万十川が全国に紹介され表舞台に出たのは、一九八三年のNHK特集の中で「最後の清流」と報道されたことが最初でしたが、一六年経た今でも全国の方々に

根強い人気が続いていること改めて認識しました。

四万十川は清流の代名詞となっていますが、水質そのものは普通程度です。何が人気を高めているかと言えば、「川本来の姿をとどめ、そこに生活が営まれている」ということではないかと思えます。四万十川程度の川は一九六〇年代頃には全国どこにもあった川です。しかし、全国の川がダム建設やコンクリート護岸で固められて来た時期に、開発の波に洗われなかったことが相対的に評価を高めている結果ではないかと思えます。

橋本知事は、「人々の息づかいが聞こえる川」といい、全国から訪れた方の中には、

「川のおいがある」と言ってくれます。

四万十川が

他の河川と異なる点

四万十川の特徴を一言で表すと、「中山間部を流れているのに、流れが非常に緩やかであること」です。日本の河川のほとんどは、二〇〇〇〜三〇〇〇メートル級の山々から発し、直線的に海に流れています。四万十川は二〇〇メートル程度の高さに源流点を持ち、大蛇行を繰り返しながら海に注いでいます。河川勾配は、中・下流域でも一キロ流れても、一〜二メートルの高さが下らず、淵では湖のような場所も随所に見られます。

下流の約五〇キロ区間を中心にゆるいS状の蛇行を繰り返す、川岸も自然の植生で覆われ人工物がほとんど見られず、上流と下流の区別がつかない等、優れた景観が見られます。

洪水時には水中に沈む「沈下橋」(他県では「潜水橋」や「潜り橋」などと呼ばれています)が、四万十川だけで二一の橋が残っており、周囲の景観と調和し、橋を使って人が川に近づきやすい場があります。川沿いには小さな集落が点在し、川と密接に関わった地域住民の生活が営まれ、人と自然が共生しています。

高知県民の四万十川への愛着

一九九五(平成七)年三月に取りまとめた流域住民及び県民調査結果では、六五・三%の流域住民、八一・三%の県民が、「四万十川は自然景観が残る美しい川」と答えています。

一方、二〇一三年度の四万十川については、約四〇%の流域住民・県民が、「自然景観は現在と変わらないが、空き缶やちりなどが散乱し魅力のない川になっている」、「四万十川の人気は落ちている」と回答しています。

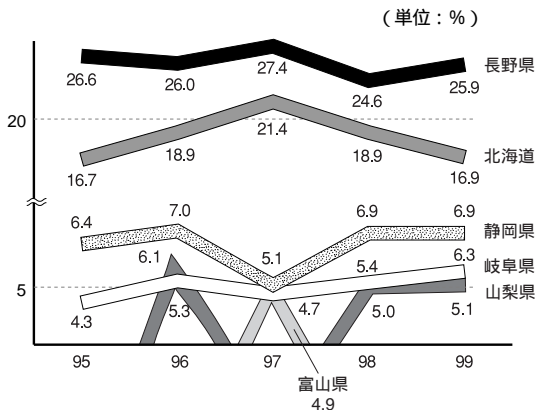
高知県は、四万十川に限らず清流といわれる大小の河川が多数存在し、遠方にある四万十川まで行かなくとも身近で体験できるため、四万十川そのものへの関心は全国の方々程無いのが実態です。むしろ、四万十川は全国の方々に高い評価を得ており、四万十川を訪れる高知県以外の割合は約八・五%であるとの調査結果も出ています。また、四万十川をきれいに保つために、市民や企業、学校関係者など様々な方々と共に活動を行っています。



もっともおいしい水が飲めるとする都道府県と国を、1つずつ記入していただいた結果です。

ほぼ毎年同様の結果となっていますが、都道府県についての回答を居住地別に比較すると、「中京圏」では「岐阜」「長野」「愛知」の順になっており、地元の方の水に対する愛着が感じられます（B図）。また、国については、山や氷河のイメージと強く結びついていることがわかります（C図）。

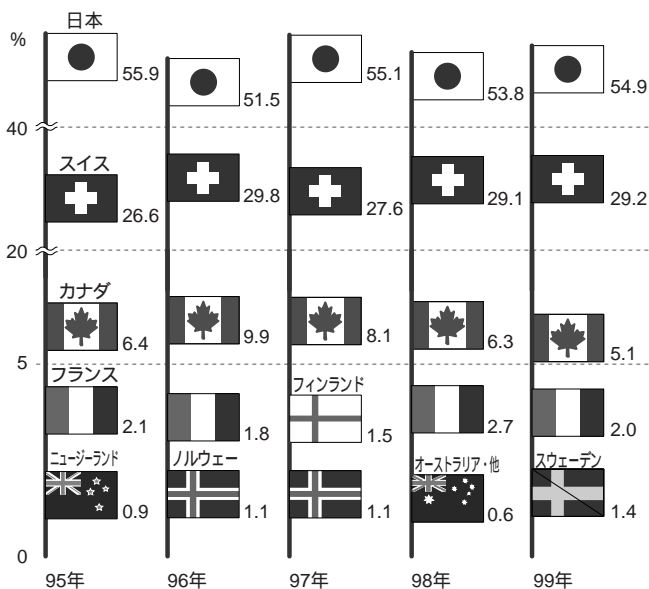
A. 《都道府県ベスト5 - 過去5年間の推移》
（単位：％）



B. 《東京圏・中京圏・大阪圏居住者が選ぶベスト3 - 99年》
（単位：％）

	東京圏	中京圏	大阪圏
1	長野県 24.2%	岐阜県 21.3%	長野県 35.5%
2	北海道 18.4%	長野県 19.7%	北海道 20.2%
3	静岡県 9.8%	愛知県 13.1%	高知県 5.6%

C. 《国別ベスト5 - 過去5年間の推移》
（単位：％）



長野県と北海道で4割 国別では日本が一番

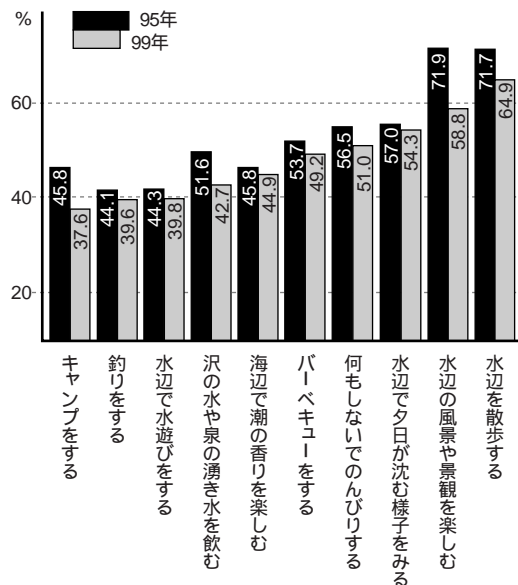
Q13 もっともおいしい水が飲めるとする都道府県と国は？

水辺に行ったらどのような楽しみ方をするか、複数選択していただいた結果です。

釣り、キャンプ、スポーツなどよりも、のんびりと静かにくつろぐ場として、水辺がイメージされています。ただ、'95年に「水辺を散歩する」は71.7%、同じく「水辺の景観を楽しむ」は71.9%でした。それに対し、'99年では64.9%、58.8%と下がってしまっているのはどうしてでしょうか。水辺の減少、生活者の嗜好やライフスタイルの変化でしょうか...？

Q12 水辺での楽しみ方は？

《水辺でやってみたいこと》（単位：％）



現在の日本で、「水の都」という言葉に最も近いと思う町や都市を、1つだけ記入いただいた結果です(A・B図)。この他にも、水の都としてイメージする地として、次の地名が挙げられました(C図)。潮来、静岡、神戸、高知、長崎、金沢、北海道、倉敷、山梨、高山、富士山麓、東京、水戸、新潟、小樽、沖縄、名古屋、富山、萩・津和野、盛岡、上高地、松江、山形、広島、横浜、その他多数。こうして見ると、「水の都」と言っても、回答者は“舟運・水運の町”“清冽な水が残る町”“源水が湧き出るイメージがある山岳観光地”“川沿いに発達した古都観光地”など、いろいろなイメージを重ね合わせていることが分かります。

A. 《都道府県ベスト5 - 過去3年間の推移》

(単位：%)

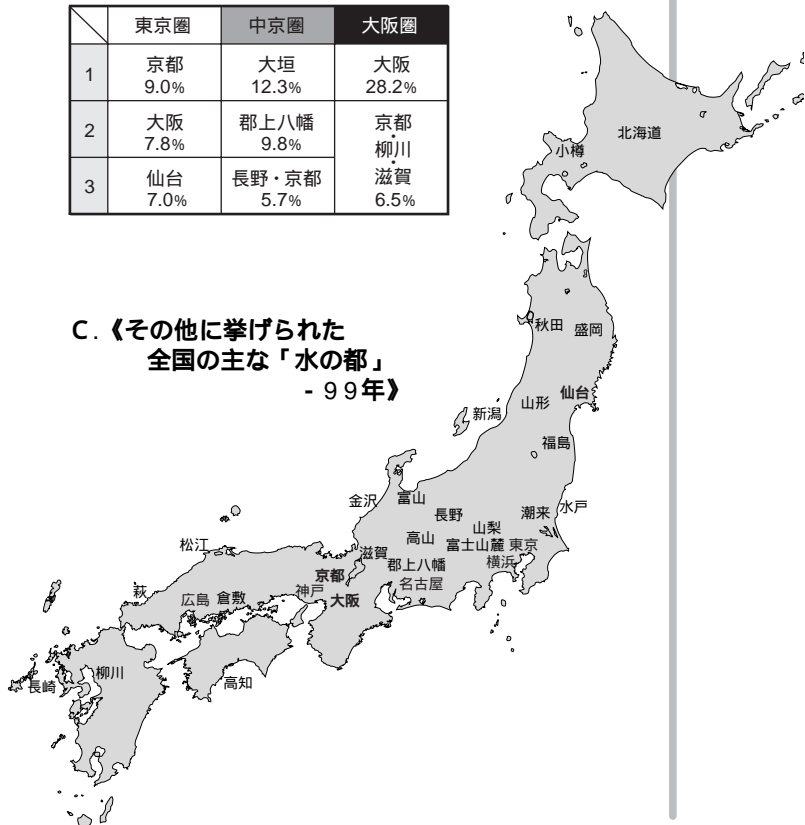
	97年	98年	99年
1	大阪 10.3%	大阪 12.4%	大阪 12.0%
2	京都 5.6%	京都 10.9%	京都 7.6%
3	仙台 4.9%	大垣 4.4%	仙台 5.5%
4	滋賀 長野	仙台 4.2%	柳川 4.5%
5	柳川 3.6%	滋賀 3.6%	長野 3.7%

B. 《東京圏・中京圏・大阪圏居住者が選ぶベスト3 - 99年》

(単位：%)

	東京圏	中京圏	大阪圏
1	京都 9.0%	大垣 12.3%	大阪 28.2%
2	大阪 7.8%	郡上八幡 9.8%	京都 柳川
3	仙台 7.0%	長野・京都 5.7%	滋賀 6.5%

C. 《その他に挙げられた全国の主な「水の都」 - 99年》



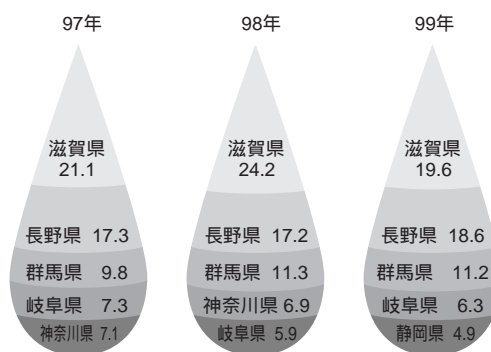
大阪と京都が過去3年間 1位・2位を占める

Q15 「水の都」のイメージにもっとも近い都市は？

「水の供給県」としてイメージする都道府県を、1つだけ記入いただいた結果です。回答者が居住している地域の水道水源地をイメージされている方が多いようですが、全体としては「滋賀県」「長野県」「群馬県」の順位がこの3年間続いています。

A. 《都道府県ベスト3 - 過去3年間の推移》

(単位：%)



B. 《東京圏・中京圏・大阪圏居住者が選ぶベスト3 - 99年》

(単位：%)

	東京圏	中京圏	大阪圏
1	群馬県 21.7%	長野県 27.9%	滋賀県 59.7%
2	長野県 16.4%	岐阜県 23.8%	長野県 13.7%
3	神奈川県 8.6%	滋賀県 8.2%	大阪府 4.8%

全体ではベスト3が過去3年間不動

Q14 水の供給地(都道府県)として思いつくのは？

「この調査結果を見て」
山梨県新聞論説委員
編集局長 深沢 健三氏
山梨県の北辺に横たわる奥秩父山系に甲武信ヶ岳(二四七五メートル)があります。太平洋と日本海の分水嶺で、笛吹川(富士川)・荒川、千曲川(信濃川)の最初の一滴がこの山で生まれます。三つの川の生まれた水の味は、地元びいきを割り引いても笛吹川が一番です。花崗岩から吹き出す水は甘露以外に形容ができません。また笠取山(一九五三メートル)は丹波川(多摩川)の源流

の山。この山の山頂近くに水干(みずひ)と呼ばれる場所があり、石の祠があるのですが、多摩川の始まりです。この水が小河内ダムに集まり、都民の生活を潤っているのです。一帯は都の水源地として大切にされています。また丹沢山系の道志村は横浜市の水道をまかかって百年を経ました。山梨の水道水源は七割がミネラルたっぷりの地下水で表流水は三割。全国は逆です。山梨の「おいしい水」第五位は、源流県・供給県として喜ぶべきか悲しむべきか。イメージは「水もの」。ぜひ中身を味わってみて下さい。